

阪南病院

(平成 25 年 1 月 21 日訪問)

平均在院日数 87.6 日 (平成 24 年 12 月 31 日時点)

積極的な取り組みなど

- ・病棟によって「アート イン ホスピタル(Art in Hospital)」が導入され、壁際に絵や写真、貝殻を布で覆ったオブジェがあったり、天井の照明にもステンドグラスのように絵が描かれるなどの工夫がされ、病棟の雰囲気は穏やかに感じられた。
- ・「みなさまの声」の回答は A4 サイズの紙で病棟に掲示してあり、分かりやすかった。
- ・詰所のカウンターには携帯の充電器(無料)と体重計が備えられ、いつでも利用できる。

前回の訪問(平成 17 年 10 月)から改善されていたこと

- 前回は合併症病棟の D3 病棟では薬は訪室しての手渡ししていなかったが、職員によると現在は全病棟で薬は訪室して手渡ししている。H2 病棟の患者からは「薬は詰所に取りに行く」との声もあった。
- 前回は職員がサポーターの後ろについて来たが、今回は後ろについて来ることはなかった。

病院全体

平成 21 年 11 月より敷地内が全面禁煙になった。常勤医師は 42 名(うち指定医 22 名)、正看護師は 262 名とのこと。

「みなさまの声」とサービス向上委員会

デイルームに「みなさまの声」という箱があった。投函された意見をサービス向上委員が回収、月 1 回検討。投函された病棟にその回答を掲示する。

電話

F3 病棟では、公衆電話は詰所のすぐ近くにあり、仕切りや椅子もなく、電話機はやや高い位置にあった。H 館ではデイルームの横に電話ボックスが 2 つあり、1 つは公衆電話と椅子があり、1 つは携帯電話を利用するとき使用するものだった。個人の携帯電話は詰所で預かり、夜間は使用できない。昼間は、携帯電話用の電話ボックスや病棟外で使用可能。

服薬

食後に食堂で声をかけて渡していくが、食べてすぐに部屋に帰る患者や就寝前は、薬を台車に乗せて各病室を回り渡していくとのこと。

金銭管理等

金銭管理料が 84 円/日、私物管理料が 26 円/日。金銭管理料と私物管理料は必ずセットで利用するので、あわせて 1 日 110 円となる。

掲示物

「医療福祉相談室のご案内」という掲示があり、家族や本人が詰所などで申し込みができること、電話相談もできることが書かれ、電話番号も表示されていたので分かりやすかった。またその日の職員の名前が「リーダー・薬係・夜勤・休み」と分類され、詰所の横に表示されていたのが見やすかった。

F3 病棟 閉鎖 男女 認知症治療病棟 60 床

平成 23 年 3 月に療養病棟から改修され、設備的にも新しい。病棟の壁の随所に植物等のイラストが書き込まれ、リラックスした雰囲気を醸し出していた。

重度(34 床)と中軽度(26 床)とが扉で仕切られていた。食事は 60 名全員が重度側のデイルームで摂るが、希望があれば軽度側のデイルームで食べることも可能とのこと。デイルームにソファとテーブルがあり、数名が話しをしながら寛いでいた。

ジュースの自販機と冷水・お湯・お茶のサーバーがあった。コップ等は見当たらなかったが、看護師に聞くと、コップは本人が言ってきたら渡す。そのほか午前 10 時と午後 3 時には水分補給を行っている。

詰所と反対側にある生活機能回復訓練室でテレビが見られる。室内はかなり広く静かな空間で、2 名の患者がテレビを見ていた。

金銭管理の自己管理の患者はいない。病棟内で病衣の患者と私服の患者がいた。私服を着て洗濯を業者出しにしている患者もいるとのこと。

レクリエーション等については、その日によって、スタッフと相談しながら午前の時と午後の時があり、カラオケ等をしている。OT の機能回復訓練は週 3 回、活動内容によって違うが約 10 名が参加している。

入院患者の状態の変化やヒヤリ・ハット等については、随時受持ちとその都度カンファレンスを行っているが、その他にも月 2 回ケースワーカーが入って定期的なカンファレンスも行っている。

病室

2 人、4 人部屋がある。ベッド周りのカーテンが引かれ、廊下側からもプライバシーが守られていた。各々に私物入れのロッカーとテーブル、椅子がある。

トイレ

個室トイレにウォシュレットとナースコールがあった。手洗いについてはエアータオルがあった。

入浴等

入浴は週 3 回。浴室はシャワーが 6 ヶ所、浴槽には手すりが付いていた。浴室に比べて脱衣場はやや狭く感じたが、左右の棚に名前を書いた洗面器が大量に置かれ、それぞれの洗面器の中にシャンプーボトルとボディソープが入れられていた。

外出

任意入院の患者(訪問時 9 名)は院外まで外出できる。外出可能な患者が外出するには特別な手続きはなく、外に出たいと言えば出ることができる。ただ、外出する患者はほとんどいないとのこと。

患者の声

「入院して 1 ヶ月、2 回目の入院。これだけの人数がいるのだからまかないきれない時もある。薬は持って来てくれる。私は感謝の気持ちを持っている」「他の病棟から変わってきた。ジュースは月・水・金しか買ってもらえない、パンが欲しいけど買いに行けない、寝てばかりしてたらあかんと言われる」「食事は悪くない。主治医と会うことはあるが、診察はない」「なんで鍵を閉めなあかんのか」「4 人部屋でいいのに金のかかる 1 人部屋に入れられている」

H 館

平成 22 年 10 月に新設された。H2 病棟と H3 病棟は保護ユニット・回復期ユニット・退院期ユニットと 3 つのエリアに分けられていた。保護ユニットと回復期ユニットの間は 2 重の扉で隔てられ、カードキーで 1 つ目の扉を開けても、その扉が閉まらない限り次の扉は開かないような設計になっており、ライター等をチェックするための金属探知機もあった。閉鎖処遇になっている患者も屋上庭園や屋内体育館、患者用のエレベーターが利用できる。病棟の構造は、職員の目の届きにくい所も 2 ヶ所作り、患者が落ち着く場を選べるようにしてあるとのこと。

保護ユニット(隔離室)

各病棟にソフト 6 室とハード 6 室の 12 床ある。いずれも隔離室の上部には、テレビと時計がガラス越しに設置され、テレビのリモコンについては、渡せる患者には渡すとのこと。個室の窓は大きく明るい印象を受ける。私物は廊下の壁面に収納ができる。

ハード 6 室にはナースコールはないが、声センサーで患者の質問に対応し看護師が部屋に訪れる。夜間はモニター画像で見る仕組みで、60 分に 1 回の巡回をしているとのこと。トイレは区切られていた。水中毒への対処のためトイレも含め、廊下から水をコントロールできる。トイレにもセンサーがあり、利用時間が長すぎる場合には詰所に知らせが入る。

ソフト 6 室は、扉が 2 重に施錠されており、壁面や床に、よりクッション性の高い素材が使われている。隔離室用の浴室やトイレに呼び出しボタンがあった。

廊下の手すりは、安全面から断面がキノコを横にしたような形状になっており、紐を通せないような設計になっている。

回復期ユニットの病室・デイルーム

私物入れの鍵は、隔離室を出た患者はほとんど

自己管理をしている。1 人部屋はカード式のテレビや冷蔵庫があった。またトイレも個室毎に 1 つあり、4 人部屋にも部屋毎にトイレがあった。

入浴は毎日可能であるが、介助が必要な患者は週 3 回のみに限られていた。洗濯機、乾燥機はそれぞれ 100 円で使用できるようになっており、洗濯室の横に物干し場があった。物干し場に出る扉には鍵が掛かっており、利用したい場合はスタッフに声をかけるよう掲示があった。

デイルームには 4 人掛けのテーブルが 6 台あり、そこでカップ麺を食べているグループがあった。ジュースの自販機と並んでお湯とお茶のサーバー、新聞・雑誌、カードゲーム、オセロ盤などがあった。

退院期ユニットの病室

自分で自室のカード鍵を持ち、鍵を閉めたいときは自分で中から閉めることもできる。発達障害や自分の意思で治療を受けることができる患者は、入院時から退院時までここで過ごす方もいれば、試験的に使用してみることもあるそうだ。

H2 病棟 閉鎖 男女 精神科救急病棟 60 床

スーパー救急病棟なので、3 ヶ月で退院できる患者は退院するが、そうでない場合、他の病棟に移ることもある。金銭管理は、隔離室を出た患者は自己管理している。

病棟 OT は月・火・木・金の午前中で、ストレッチやビーズ・ドリル・塗り絵などを多目的室で行っている。

隔離室用のデイルームでは、患者が面会の家族と一緒に廊下に座って外の景色を眺めていた。

患者の声

「入院して 1 ヶ月位。ここは快適、よそと比べてきれいで、よく見てくれる、ホテルにいるような気になる時もある。ただお風呂に難あり」「うつの薬をもらってここに通うようになって、緊急で即入院になった。買物は詰所をお願いしたらその時によって 2 時なら 2 時に行く」「お風呂は開放じゃない人は大風呂だけ」「夜は廊下をペタペタ歩く音が聞こえて眠れない」「お金は伝票管理、でも現金も持っている、それがおかしいということに今日気がついた」「(個室に入っていた患者)部屋の入り口を開けておくからねと言われる、寝るときだけ扉を閉める」「入院して 2 ヶ月位。売店の値段が高い。1 つのものが 50 円以上高かったりするので家族に買ってもらうこともある」「ロッカーの鍵は自分で持っている」「お風呂は 4 時半までに入らないといけなくてバタバタする、シャワーが肩の下位で頭から浴びられないので困る」「ここはあまり好きじゃない、前のところは詰所の前に立ったら「何ですか」と聞いてくれたがここは顔も合わせない、5 時前になったら特に忙しい」「散歩は週 1 回 OT の人が連れて行ってくれる」「毎日風呂に入っている」

診察は毎日、ベッドか診察室で。退院の目処は 2 ヶ月。病気の説明はある。外出は許可が下りていない。みんないい人ばかりで、デイルームで話している」「みんなが薄情だと思うことは多々ある。お金は持ってきていないので、他の人がジュースを飲んだりお菓子を食べているのを見ているだけ。面会は 2 回あった」「拘束されたときはかなわん。外出は屋上庭園、寒かった。退院の話は出ている」

H3 病棟 閉鎖 男女 精神科救急病棟 60 床

鍵の自己管理は病棟の 3 分の 1 程。部屋の私物庫にも別の鍵を付けている患者もいた。訪問中、ホールで患者と家族が面談していたり、家族が小さい子ども連れで病室を訪問している姿も見られた。全体に人口密度は高くなく、静かな病棟だった。

シャワー室は毎日使用可能で、入浴は週 3 回、職員によると「毎日入りたい」との声はないとのこと。

患者が、保護ユニットのエリアのデイルームで過ごすこともあるとのことだったが、ここでは患者と出会わなかった。部屋で休んでいる患者もいた。ハード 6 室エリアでは壁を使った私物収納庫前で、1 名の患者が荷物の整理をしていた。

隔離室ベッドには、拘束帯が取り付けられてあった。24 時間患者を受け入れており、多い日は 1 日 5~6 名の入院があるので、先に拘束帯をベッドに取り付けておき、不必要な場合は取り外すようにしていると説明だった。かなり使い込んだ拘束具だった。

患者の声

「ここで良いことは 3 食が安定して出てくること。いつ退院できるのか話はできていない。病棟の雰囲気は静か」「明日退院なので不安はない」「退院日が分かっているので安心」「廊下の天井の絵が素敵」

検討していただきたい事項

「みなさまの声」の回答の掲示について

F3(認知症治療)病棟では投書がなかったためか回答の掲示がなかった。面会に来た家族や友人からも要望等を投書できることを投書用紙に記載や投書箱の付近に掲示する等、家族らによく分かるよう工夫していただきたい。また投書に対する回答は、投書のあった病棟にだけ掲示するのではなく、病院全体の問題に関する投書と回答については、回答の掲示を認知症治療病棟を含む全ての病棟において行っていただきたい。(病院:「みなさまの声」は入院患者だけでなく、来院される方全員から意見をいただくために設置しています。投書用紙・筆記用具については、今後、面会室やカンファレンス室・掲示版などに「みなさまの声」についての案内表示を行いたいと思います。)

病棟での職員の言葉遣いについて F3病棟

患者から「外からの電話を取次いでもらえない。風呂に入るときも怒鳴られながら入っている」「見ているテレビを職員に消されることがある。患者を侮辱しとるのか」という声があった。H2 病棟では患者から「(物干しを使用するか聞くと)何か言っても“後で”と言われるので言うのが邪魔くさくて使っていない」との声があった。丁寧に説明して患者の納得を得るなど、言葉遣いを含む接遇について改善していただきたい。(病院:F3病棟は認知症患者を専門的に治療を行う病棟です。軽度から重度まで、様々な状態にある患者がいます。状態の如何にかかわらず生活機能を高めるために生活訓練を行っています。テレビについては病棟内には、重度フロアと軽度フロアに各一台ずつ設置しています。(略)テレビの取り合いにならないよう、職員が個別に説明をさせていただいていますが、なかなか理解が持続しにくいことがあります。できるだけ、わかりやすく伝えるように時間をかけて説明を行いたいと思います。

患者宛ての外線については、取り次がせて頂いています。(略)怒鳴られながら入っているについて、スタッフ教育については今後も継続していきたいと考えています。対人間のコミュニケーションという部分で、心の通わない場面があったのではないかと考えられます。(略)患者様自身が一番苦しい状況に専門として十分対応できていなかったことの現われであると真摯に受け止め、今後の認知症看護を考え活かしていきたいと思います。

おたずね

- F3 病棟では、何故室料が 4 人部屋においても 2 人部屋と同額の 1 日 210 円なのでしょう。(病院:もともと多床室は一日 210 円が設定されていました。2 人部屋は 500 円~1000 円が設定されていましたが患者への負担軽減のために 210 円にしています。)
- 病衣のリース料が高いとのことでしたが、いくらなのでしょう。また、私服の洗濯を業者に委託する場合はいくらですか。(病院:病衣のリース料は 1 組 150 円です。洗濯物はネットの大きさで料金が決まっています。小ネット(タオル・バスタオルの他小物 3 点) 280 円、中ネット(略)480 円、大ネット(略)680 円)

精神保健福祉資料より(平成 24.6.30 時点)

626 名の入院者のうち統合失調症群 353 名(56%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害 83 名(13%)、気分障害 102 名(16%)。入院形態は任意入院 216 名(35%)、医療保護入院 406 名(65%)、措置入院 3 名(0.5%)。在院期間が 1 年未満の患者が 387 名(62%)、1 年以上 5 年未満の患者が 105 名(17%)、5 年以上 10 年未満の患者が 59 名(9%)、10 年以上 20 年未満が 36 名(6%)、20 年以上 39 名(6%)。